



空き家利活用コンテスト2022 優秀賞



非住宅部門

事例 05

大山バックパッカーズ

大山を旅する人々だけでなく、
地域も元気しているゲストハウス



1階のリビングダイニング。定員の16名が同時に席に着いても十分に余裕がある広さ。ソファスペースもあり、食事後にゆっくり寛ぐこともできる。貸切も可能で、3世代での家族連れやグループでの利用も多いという。右の扉はキッチンへ通じている。

「大山が見える家」を求めていた受賞者が見つけたのは、なんと大山ペンション村内に建つ元住居兼ペンション。セカンドハウスのつもりで購入したが、周囲の勧めもあり、ゲストハウスを始めることに。

コスト削減のため、内装は友人に手伝ってもらいながらセルフリフォーム。施工で分からないことがあれば専門家に問い合わせ、2年かけて改修。平成26(2014)年5月にオープン。ツインルーム3部屋からスタートし、現在は6部屋・16名まで利用できる。

一番の自慢は、オーク(ナラ)の無垢材フローリングのリビングダイニング。青タイルが印象的なキッチンもお気に入り。大人数でワイワイ言いながら料理づくりを楽しめる空間。家族連れの宿泊者に「キッチンが使いやすいので、子どもたちが手伝ってくれる」と喜ばれることもあるとか。

ホテルや旅館とは違い、ゲストハウスは夕食の提供がないなど施設内だけでサービスが完結しない。ゆえに、近隣の飲食店とコラボレーションした宿泊プランを作成するなどして工夫。もともと地域活性化を意識していたわけではないが、場所ができると自然と人が集まるようになり、今ではすっかり地域の盛り上げ役だ。



カフェのような雰囲気です居心地がいい。



(写真上)2階の廊下に並ぶ洗面所コーナー。
ピピットカラーのタイルに気持ちが明るくなる。
(写真左)階段ホールも鮮やかな色合いで
旅気分を盛り上げてくれる。



青色を基調とした1階のキッチン。中央に作業台があり、家族や仲間と一緒に楽しく料理ができる。



2階には6つの客室が。部屋ごとに定員や仕様、壁紙の色や模様を変えるなどして特徴を持たせている。奥行きのある部屋には畳スペースを設置。荷物を広げたり、ゴロンと寝転がったりできて便利だ。

[DATA]



- 【所在地】西伯郡伯耆町小林123-39 (大山ペンション村)
- 【構造】木造2階建て 【築年月】昭和52年
- 【改修後の用途】ゲストハウス
- 【間取り構成】個室6室、リビングダイニング、キッチン、風呂、シャワー室、トイレ、洗面コーナー、リネン室2室
- 【改修期間】2012年4月～2014年4月
- 【改修費用】約750万円